

3 - 9 2000年の災害データ

CRED のデータをもとに2000年の災害を分析した。その結果、次のような特徴が判明した。

2000年は世界中で537の災害が起こっている。このうち、アジア防災センターのメンバー国(23ヶ国)で起こった災害は世界全体の災害の32%にあたるが、メンバー国での死者は46%であり、さらに被災者数は72%に上る。アジア全体の傾向もほぼ同様である。このように、メンバー国およびアジア地域は、災害の多発地帯であることがわかる。

なお、非メンバー国のイランでの干ばつ、北朝鮮での台風被害の影響で、被害額の世界全体に占める割合に関してメンバー国とアジア全体の傾向とは異なっている。

災害の種類としては、世界では干ばつ、洪水、暴風の3つで被災者割合の99%、被災額の94%を占めている。同様にメンバー国においてもこの3つの災害が、被災者割合の99%、被災額の99%を占める。

メンバー国においては、中国、ロシア、インド、バングラデシュ、インドネシアで災害発生件数の約6割、被災者数の約9割を占めている。

この他、カンボジア、モンゴル、フィリピン、タジキスタン、タイで100万人を超える被災者が発生している。